パッと兩手を一時に放したのだ。
そして放した兩手を汽車と平行に、砂利の上へお辭儀をする樣に揃へて着いたのだ。
兩足も摧かなかつた。
ハッとしたが何ともなかつた。
只二分間ばかり立ち上る氣力は無かつた。
汽車は闇に黑煙を吐いて走り去つた。
星は頭上に瞬いてゐたか何うか知らない。
驚いたのは立ち上るや否や、反對の方角から汽車がゴー然と驀進して來た事だ。
ウロ〳〵してゐたら轢き殺されたに違ひない。赤い目玉は遠ざかつた。
俺は何よりバスケットと、毛布の安否が氣づかはれた。
線路傳ひに行けばあるに違ひないのだが、何だか測定してみても、十丁も後がへりしなければたらない。
俺は馬鹿らしいので線路の横へ降りた。